

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名 山形県

学校の概要

天童市立天童南部小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	4	4	1	26	29
児童数	149	123	122	116	115	119	4	748	

実践研究の概要

1. テーマ

子どもの主体的な学びを実現する授業のあり方をめざして
～「学びの基礎基本」における個に応じた指導とカリキュラム開発～

2. 内容と方法

(1)実施学年・教科

算数を中心に

第1学年・算数

数の概念・レディネスにかなりのばらつきがあり、また、集中力が持続しにくい児童がいる学年であるため。

第2学年・算数

学級編成替えがなく、1年の実績を踏まえて、学習集団として編成して、より一人一人の実態に即した形で指導する学年であるため。

第4学年・算数

ADHDと診断されている児童が数名おり、個別的な指導体制が必要な学年であるため。

第5学年・算数

個の興味・関心に応じた教材開発を実践した実績があるため。また、学習内容が高度化し個人差が生じやすい学年であるため。

第6学年・算数

教科担任制や能力別の学習に適応していく学年であるため。

全学年暗唱と計算力強化（計算力の向上と旧きよき学習法の習得のため）

100ます計算を全校的に実施する。算数の時間を活用して実施する。
計算力の伸びを定期的に記録する。名文・詩文を暗唱する。

(2)年次計画

平成十四年度

テーマ

「学びの基礎基本」における個に応じた指導とカリキュラム開発

仮説

個の興味・関心に対応した教材を開発し、学習内容を多様に選択する場を設定し、子どもの自主的な選択の機会を取り入れることによって、教科への興味や意欲が増し、学力の向上につながるだろう。

研究内容・方法

- ・算数科を中心にして、習熟度別学習やコース別学習を設定し、子どもが主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・算数科の教材を分析し、多様な教材を開発する。
- ・授業を教職員が互いに開いて、日常的に検証し、研修していく。

平成十五年度

テーマ

「学びの基礎基本」における個に応じた指導とカリキュラム開発

仮説

個の興味・関心に対応した教材を開発し、学習内容を多様に選択する場を設定し、子どもの自主的な選択の機会を取り入れることによって、教科への興味や意欲が増し、学力の向上につながるだろう。

研究内容・方法

- ・研究教科を算数にしぼり昨年度の実績をもとに、コース別学習や習熟度別学習を実施する。
- ・一学級複数教師の授業のあり方について、授業を互いに公開し合いながら指導方法を研修していく。ホームページ作成の計画を検討する。全校的に実践していく方針に変更したため、実績のある算数にした。

平成十六年度

テーマ

「学びの基礎基本」における個に応じた指導とカリキュラム開発

仮説

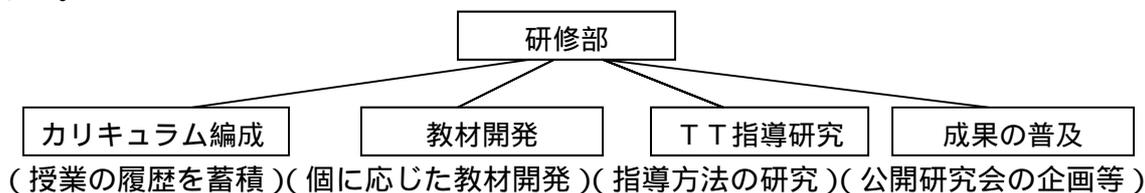
学びの履歴を蓄積していくシステムを整えることによって、少人数指導や習熟度別学習を取り入れた実践が日常的に行なわれるカリキュラムが開発されるだろう。

研究内容・方法

- ・個に応じた教材開発や少人数指導の授業を公開し、普及する。
- ・3年間のまとめをカリキュラム化し、印刷物としてまとめ発行する。

(3)研究推進体制

学校経営そのものがフロンティア事業という考えのもとに、以下のような組織を編成する。



研修部が、研究主任を中心にフロンティア事業を推進していく。カリキュラム編成は、教務主任が中心になって実践を集積していく。

平成15年度の成果及び今後の課題

1. 成果

- (1) 算数に対する意識が肯定的に変容した子が70パーセントに増えた。
- (2) 子ども一人一人の変容を意識した教師の指導のあり方が見られるようになった。
- (3) 単元の目標のクリア基準を設定し、その到達に応じた学習集団の学習を開発し、子どもの興味・関心を生かしたコース別学習の違いを比較検討することができ有効性を検証することができた。そして、「学び直し」というキーワードで指導計画を立案することが有効である事を見出した。
- (4) 日常的に、全校的にねらいに応じた学習集団による授業が展開できるようになってきた。
- (5) 100ます計算を各学年平均60回実施し、約90%の子が計算速度上昇。そのうち約2倍速度が速くなった子約50%。

2. 課題

- (1) 個に応じ、しかも、関わりを持たせる教材開発の仕方について教師の力量を高めていく必要がある。
- (2) 研究内容が、学習形態や指導方法に傾斜している。さらに、個に応じた教材開発を進めていく必要がある。そして、実践の成果を次の学年が参考にできるようにカリキュラムを整備していくようにする必要がある。
- (3) TT指導については、学級外の人員が不足しており、時間割編成が難しい。

学力把握のための学校の取組について

- ・定期的な学力調査の実施（年1回＝教研式標準学力検査）
- ・各学年で「100ます計算大会」や暗唱大会を実施。
- ・教職員が互いに授業を開いていく機会（年に1回は研究授業をする。）を設定し、子どもの授業での実際の姿を語り合い、往復書簡型の通知表で保護者に成果を知らせていく。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・平成16年度に自主公開研究会を実施する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7 ~ 1 2学級		
	1 3 ~ 1 8学級	1 9 ~ 2 4学級		
	2 5学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T . Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
	【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無	